

本学習指導案のポイント（高校教育指導課 指導主事 小椋 由美）
 ○ピラミッドランキングという思考ツールを使うことにより、情報を可視化し、グループで協議する場面で、生徒が主体的・対話的に関わる状況を生み出すことができた。
 ○バナナという身近な例を具体的に取り上げることで、環境や社会への影響を意識した責任ある消費について考察させることができた。

- 1 実施日：令和4年10月14日（金）4限：11時45分～12時35分（50分）
- 2 学年・学級：第1学年3組（41名）
- 3 単元名：消費者市民社会をめざして
- 4 単元について

(1) 単元観

本題材は、高等学校学習指導要領「家庭基礎」における「C持続可能な消費生活・環境」の(2)「消費行動と意思決定」(3)「持続可能なライフスタイルと環境」に位置づく。

消費は投票のようなもので、消費者市民社会の形成のためには、意思決定を左右する情報の見極めとその影響を考えることが必須である。消費を多面的・客観的に捉え、論理的に考えることができるよう情報の価値や妥当性を主体的に分析し、意思決定する力を身に付けさせたいと考えた。生徒達には今の自分の生活の豊かさの向こう側にある社会・世界の現状を意識させ、自分の消費生活とのつながりを考えてもらいたい。それらを正しく理解したうえで、自分の消費生活の中で何をするのか、何ができるのかということを考え、行動することを課題とし、単元を設定した。

(2) 生徒観

消費行動のアンケート調査を行ったところ、95%以上の生徒が「必要なものを必要な量だけ買う」「使い捨てではなく、長く使えるものを選ぶ」「不正な事業者の商品は選ばない」と考えている。一方で、SDGsを題材にした授業を行ったにも関わらず、「環境に負荷の少ない商品を選ぶ（エコマーク、リサイクル・リユース商品）」「つくる人に公正な分配が保証されるものを選ぶ（フェアトレード商品）」「環境問題に熱心に取り組み、環境情報を公開しているメーカーや店を選ぶ」「障がいがある人の支援につながる商品を選ぶ」「消費者被害を防止するための啓発活動に興味・関心がある」を選んでいる生徒が60%にとどまっている。実体験では商品を選ぶ際、あまりそのような場面に出くわすことがなかったり、注意深く商品を見比べることがなかったりするように思われる。

(3) 指導観

持続可能な消費生活・環境を通して学習したことのまとめとなるよう、消費行動の実践として課題を設定した。バナナという、身近にある商品を題材にして、商品選択のための6つのキーワード（価格・産地・環境ラベル・企業・農薬・オリジナルキーワード）を基に、ピラミッドランキングという手法を用いて多面的に考え、意思決定を体験する場面を設定した。また、他者の発表を聞くことで、自分や家庭、地域社会の生活の中で適切な消費行動と商品選択の意思決定ができるよう、考えを深めさせたい。

5 単元の目標

消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性、消費者保護の仕組みを理解し、さらに生活と環境の関わりや生活と環境との関わりや持続可能な消費、持続可能な社会へ参画することの意義について理解するとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。

自立した消費者として、生活情報を活用し、持続可能な社会を目指して主体的に行動することや安全で安心な生活と消費について問題を見い出して課題を設定し、根拠に基づいて論理的に課題を解決する力を身に付けている。

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性、消費者保護の仕組みや生活と環境との関わりや持続可能な消費、持続可能な社会へ参画することの意義について理解し、適切に生活情報を収集・整理できる。	・自立した消費者として、生活情報を活用し、持続可能な社会を目指して主体的に行動することや安全で安心な生活と消費について問題を見い出して課題を設定し、根拠に基づいて論理的に課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

7 指導と評価の計画（全 9時間）

次	学習内容（時数）	評価規準	評価			
			知	思	主	評価方法
1	消費者問題と購入・支払いのルールと方法（2時間）	・身の回りの消費者問題、多様化する販売方法、契約の重要性について理解している。 ・消費者問題を予防し、問題に対して適切に対応し、責任ある消費行動が取れるような態度を身に付ける。	○	○		・ワークシート ・定期考査
2	生涯の経済生活を見通す（2時間）	・経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方、リスク管理について理解している。 ・収入と消費、家計を考え、生涯を見通して経済生活をマネジメントしていくことを考えている。	○	○		・ワークシート ・振り返りシート ・定期考査

3	これからの経済生活 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な消費について理解している。 ・地域や社会と協力・協働しながら、持続可能な社会、エシカル消費の実践について考えている。 ・これからの持続可能な社会を構築していくために、何ができるかを考えて実践しようとする。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・定期考査
4	消費者市民社会をめざして (2時間) 本時2/2	<ul style="list-style-type: none"> ・商品購入について調査、考察したことを他者にわかりやすく発表することができる。 ・適切な消費行動に向けて商品選択の意思決定をし、さらに自分の行動を振り返り、自分ができるよりよい消費生活を実践しようとする。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・定期考査

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・商品情報を読みとり、商品選択に向けて考察したことを他者にわかりやすく表現する。
- ・適切な消費行動に向けて商品選択の意思決定をし、さらに自分の行動を振り返り、自分ができるよりよい消費生活を実践しようとする。

(2) 観点別評価規準

- ・商品情報を読みとり、商品選択に向けて考察したことを他者にわかりやすく表現する。【思考・判断・表現】
- ・適切な消費行動に向けて商品選択の意思決定をし、さらに自分の行動を振り返り、自分ができるよりよい消費生活を実践しようとする。

【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 準備物

教科書「家庭基礎自立・共生・創造」(東京書籍)、最新生活ハンドブック資料&成分表(第一 学習社)、発表原稿、ワークシート、A4用紙、名刺用紙、プロジェクター、各自タブレット、リーフレット「SDGs 入門」(JICA 中国)

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	1 前時の確認と本時の学習内容と目標を理解する。	・前時の課題について、各グループで作成したワークシートをもとに、本時は各グループが発表することを伝える。発表者・聞き手の評価の観点を確認する。	
展開 35分	<p>〈本時の目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品情報を読みとり、商品選択に向けて考察したことを他者にわかりやすく表現する。 ・さまざまな意見を聞き取り、適切な消費行動に向けて商品選択の意思決定をし、さらに自分の行動を振り返り、自分ができるよりよい消費生活を実践しようとする。 		
	2 前時で作成したピラミッドランキングを用いて、各グループの発表を行う。 6つのキーワード(価格・産地・環境ラベル・企業・農業・オリジナルキーワード)を用い、商品選択(バナナ)をする。 発表者は発表時にプレゼンを行う。聞き手はプレゼンを聞き、評価を記入し、その結果について考察する。(1グループ 約3分)	・グループワークの成果を発表し、相互評価を行うことにより、他者の意見にも耳を傾け、自分はどうのように商品を選択すべきか、その視点をもつことを意識させる。	・商品情報を読みとり、商品選択に向けて考察したことを他者にわかりやすく表現する。【思考・判断・表現】(ワークシート)
終結 10分	3 まとめ 振り返りアンケートをClassroomに投稿する。 グループでの話し合いや各グループによる発表を聞いて、考えたことをまとめる。	・アンケートの回答をGoogle Classroomに投稿させる。(前時に投稿してもらったGoogle Classroomのアンケートと比較) 〈アンケート内容〉 ①自分ほどのバナナを選んだか。 ②6つのキーワードから選択理由を選ぶ。 ③よりよい消費者市民社会の実現のために必要なことは何か。	・適切な消費行動に向けて商品選択の意思決定をし、自分の行動を振り返り、自分ができるよりよい消費生活を実践しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】(ワークシート)

(5) 判断基準

評価	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A (十分満足できる)	商品情報から多くのことを読みとり、商品選択に向けて多面的に考察したことを他者にわかりやすく、論理的に表現している。	適切な消費行動に向けて商品選択の意思決定をし、自分の行動を振り返り、その中で新たな課題をみつけ、自分や家庭、社会全体にとってよりよい消費生活の構築を実践しようとする。
B (おおむね満足)	商品情報を読みとり、商品選択に向けて考察したことを他者にわかりやすく表現している。	適切な消費行動に向けて商品選択の意思決定をし、自分の行動を振り返り、自分ができるよりよい消費生活を実践しようとする。
C (努力を要する)	商品情報を読みとりが浅く、商品選択に向けて考察したことがうまく表現されていない。	さまざまな意見を聞き取り、商品選択について、適切な消費行動と意思決定する力がない。